

# 八重山 教育情報

第10号

発行：沖縄県教職員組合  
八重山支部  
石垣市登野城7-2  
官公労共済会館2階  
TEL: (0980) 82-3264  
E-mail: otu-y@cosmos.ne.jp

## 第四十四回日教組九州地区 組織運動交流集会参加報告

沖教組八重山支部 書記 豊川正晃

日教組九州地区協議会主催による第四十四回日教組九州地区組織運動交流集会在二〇一二年十月六日、七日福岡市に於いて開催され、約二百人の組合員が集い、お互いの情報交換等で交流を深めた。

一日目は午後一時より開会行事があり基調報告等の日程の後、二会場で七分科会に分かれて七分科会討議に入った。私は第七分科会で八重山支部の活動状況等を報告した。連綿と続いているペスタロッツチ教育祭、毎月発行の教育情報発送、夏休みの昼食時間での分会訪問で組合員加入促進の報告をした。

一日目の分科会終了後は午後七時から交流会があり、各県からの楽しい余興提供等で更に絆の輪が広がった。二日目の分科会でもお互いの状況報告があったが、共通していることは組合員の組織率の低さだった。魅力ある組合をどのように未加入者に伝えるかが大きなテーマになった。年度初めの加入者は多いがその後多くの組合員が去っていく現状も報告され、いずこも同じ悩みを抱えながら組合運動を続けているのだという事を実感した。「組合員加入促進に妙薬はない、地道に安心できる後ろ姿を見せることが出来るかが大事な事だと思ふ」の報告は印象的であった。暗中模索の中での新採者にとつて尊敬できる先輩の後ろ姿が光になり、それが組合加入となつて行くのではないか。多くの方のご意見を拝聴出来た有意義な交流集会でした。

## 石垣島戦跡巡り～白水を訪れて～

沖教組八重山支部 青年部 宮城知則

8月11日(土)に沖教組八重山支部青年部主催で、講師に大浜敏夫さんを招いて石垣島の戦跡巡りを行いました。初めに登野城小学校の奉安殿(ほうあんでん)、バナナ公園南口にある八重山戦争マラリア犠牲者慰霊乃碑を訪れました。そしてマラリアで犠牲者を出した旧日本軍指定の避難地である、名蔵の白水を訪れました。一時間ほど山を登ると御身影塚に辿り着きました。最後に船蔵公園の西にある尖閣遭難の碑を訪れました。沖縄戦終結後の1945年7月に起きた「尖閣列島遭難事件」の被害者をまつています。沖縄戦が終結した6月23日以降も八重山では避難や疎開が続いたそうです。そのために更なる犠牲者を出しています。知られざる歴史を学んだ1日となりました。

昨年に引き続き戦跡めぐりを行いました。記念碑以外はどの戦跡も行政から保護されていません。歴史を保存し真実を語り継ぐような、沖縄戦を風化させない努力をしていかなければなりません。来年度も企画しますので、みなさんで是非参加しましょう。



学校用品から「防災マップ」ができました。活用をお願いします。

講師の大浜さん  
による説明



ソウル  
魂において頑固  
マインド  
心において柔軟  
スピリット  
精神において活発



## 日本軍「慰安婦」展・講演会

十月十日～十四日まで『日本軍「慰安婦」展』が八重山平和祈念館で開催されました。一七〇名以上のみなさんが見学に訪れました。十四日の午後からは石垣市健康福祉センターにおいて『日本軍「慰安婦」』についての講演会も行われ、九〇名近い方が講演を聴きに来られました。みなさんの関心の高さがわかりました。講師の宮城晴美さんは「陣中日誌」の中に事実として書かれていることを示し「慰安婦は存在しなかった」と主張していることに反論していました。また、沖縄の慰安所についての詳しい話も聞くことができました。

大田静男さんからは、沖縄の慰安所は朝鮮半島から連れてこられた方が多かったが、東南アジアには沖縄の方が多くいたことなどが語られました。また、八重山の慰安所の実態などを話されました。展示会や講演では、慰安婦にされた方がの苦悩は戦後まで尾を引いていることや沖縄の米軍による性犯罪などについての証言などもありました。戦中も戦後も基本的な人権が侵害され続けていることに心が痛みます。

展示会や講演会での教職員の姿が少なかつたのが残念です。学校関係者は平和学習へ興味・関心を持ち、このような場へ足を運び自ら学習をし、子どもたちに真実を伝えていく責任があるのではないのでしょうか。

教科書から削除され、教科書では教えない事実があることを、ぜひみなさんに知ってもらいたい企画でした。

## 「オスプレイ 普天間配備」強行に抗議し、配備撤回を求める決議

9月9日に宜野湾市で開催された「NO オスプレイ県民大会」は、10万人余を結集し大きな盛り上がりを見せました。それに先立つ県議会決議、41の全市町村議会決議、県民の幅広い各階層を網羅した県民大会実行委員会、大会成功に向けてのとりくみも合わせ、「オスプレイ配備反対」は全県民的な圧倒的総意であることを内外に明らかにしました。

しかし、日米両政府は県民の願いを踏みにじり、10月1日に6機・翌2日に3機、「オスプレイ」を普天間基地に強行配備しました。日米両政府は「オスプレイの安全確保」の約束 ①なるべく市街地を飛行しない。②不安定な「変換モード」での飛行は速やかに、欺瞞的に交わって根拠のない「安全宣言」を行いました。10月1日の岩国基地からの移動の際、那覇市内・浦添市内の人口密集地を、危険な「変換モード」で飛行していることが確認されています。移動の初日から「安全宣言」の2項目が、全く守られていないことが確認されました。さらに墜落の恐怖と同時に、懸念されていた爆音も大きな数値を示し、低周波音の悪影響も専門家から指摘されています。

「世界一危険」と元米国国防長官が表現した普天間基地に、今年の4月にモロッコ、6月にフロリダにて墜落死亡事故を起こしている欠陥機「オスプレイ」が配備されたのです。普天間基地周辺には多くの学校施設・福祉施設等があります。今回の「オスプレイ」の配備は、18名の死亡者と200名余の重軽傷者を出した1959年6月30日の「宮森小学校Z機墜落事故」、2004年8月13日の「沖縄国際大学ヘリ墜落事故」を想起せざるを得ません。

もしこのまま「オスプレイ」配備を許せば、県内各地への訓練飛行や全国6ルートないし7ルートの飛行訓練も強行されます。また、名護市辺野古への新たな基地建設と同時に、東村高江区の北部訓練場内に新たなヘリパットを建設する動きも加速していきます。「オスプレイ 沖縄配備」は、さらなる基地強化であり沖縄への米軍基地固定化につながるものです。

沖縄県民は国策による沖縄戦により、県民の4分の1にあたる15万人余の犠牲者を出しました。さらに27年間の米軍直接支配を受け、1972年祖国復帰後・日本国憲法適用下でも在日米軍基地約74%沖縄配備という屈辱と負担を強いられています。私たちは世界の人々と平和に静かに人間らしく生活したいのです。次世代を担う子どもたちに豊かな自然・県土を守り、かつて平和であった「沖縄・琉球」を取り戻し伝えたいのです。

市街地に墜落が想定される欠陥機「オスプレイ」の普天間強行配備に強く抗議し、全ての「オスプレイ」の即時撤去を求めます。さらに世界一危険な普天間基地を早期に閉鎖・撤去をし、辺野古への新たな新基地建設を絶対許しません。

私たちは改めて戦争につながる一切の危険な動きを決して許さない決意で、全県民・全国の仲間と連帯し、米軍基地を容認する日米安保条約の破棄をめざし、全ての軍事基地の閉鎖・撤去を強く求めます。

内閣総理大臣  
野田 佳彦 様

2012年10月5日  
沖縄県教職員組合  
第122回中央委員会

加入目標 200名  
現加入者 171名  
新加入者 22名  
目標達成まで 29名

講師の大田静男さんと  
宮城晴美さん

講演会の様子



日本軍「慰安婦」展

